

検査の種類と目的

| 項目名 | | 目的 |
|--------|----------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 血液細胞成分 | WBC 白血球 | 白血病などの血液疾患や炎症性疾患の診断、経過観察に用いられます。 |
| | RBC 赤血球 | 貧血、多血症の診断に用いられます。 |
| | Hb ヘモグロビン | 血液中で酸素を運ぶ役目であるヘモグロビン量を測定する検査です。 |
| | Ht ヘマトクリット | 血液中に占める赤血球の全容積をパーセント表示した値です。 |
| | MCV 平均赤血球容積 | MCV、MCH、MCHCの数値から、貧血の大まかな分類ができ、その原因を推測することができます。 |
| | MCH 平均赤血球ヘモグロビン量 | |
| | MCHC 平均赤血球ヘモグロビン濃度 | |
| | Plt 血小板 | 出血を止める働きをします。肝臓の線維化が進むと産生量が減ったり、肝臓の血流が悪くなると壊されて、数値が下がります。血液の病気でも下がります。 |
| | 血液像 | 白血球を分類して、その増減から細菌感染や炎症の状況をみたり、細胞の異常を見つけます。 |
| | 血液凝固 | PT プロトロンビン時間 |
| 感染症 | HBs 抗原定性 | 陽性は、現在B型肝炎ウイルスに感染していることを意味します。 |
| | HCV抗体定性 | 陽性は、C型肝炎ウイルスに現在感染している、または感染したことがあることを意味します。現在感染しているかどうかは直接ウイルス量を調べます。 |
| | 梅毒SST法定性 | 脂質抗原に対する抗体を検出します。梅毒感染早期から陽性になる反面、疑陽性が存在します。治癒後は陰性化します。 |
| | 梅毒TP抗体定性 | 梅毒病原体に対する抗体を検出します。治癒後も陽性が続きます。 |
| | HIV抗原抗体 | HIV(ヒト免疫不全ウイルス)の抗原と抗体を同時に検出して感染初期を発見します。 |
| | インフルエンザ抗原 | インフルエンザウイルスの感染を調べます。A型B型が判定できます。鼻の粘膜の液を使います。 |
| | ノロウイルス抗原 | 便中のノロウイルスを検出して、ノロウイルス感染の有無をみます。ウイルス量が少ないと検出できません。 |
| | 尿素呼気試験 | 胃十二指腸潰瘍の原因菌、ヘリコバクターピロリ菌の感染を呼気中の成分から診断する検査です。感染の診断や除菌効果の判定にすぐれています。 |
| | 尿中肺炎球菌莢膜抗原 | 肺炎の原因として頻度の高い肺炎球菌の抗原を尿で検出します。 |
| 胸痛 | トロポニンT | 心筋梗塞患者の血中で長期間陽性を呈します。検出するには梗塞後3~5時間かかります。 |
| | H-FABP ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白 | 心筋虚血に伴う心筋細胞傷害時に速やかに血中に出来ます。急性心筋梗塞の早期診断ができます。 |
| | CK-MB クレアチンキナーゼMB分画 | 心筋由来のCKで、心筋梗塞の診断や発作時のモニタリングに用いられます。 |
| | D-ダイマー | 血中濃度の上昇は、生体に形成された血栓の程度を反映します。 |
| 心不全 | NT-proBNP | 心不全の病態把握や心機能障害の指標として有用です。 |
| 甲状腺 | TSH 甲状腺刺激ホルモン | 甲状腺ホルモンの合成と分泌に作用します。 |
| | FT4,FT3 甲状腺ホルモン | 蛋白に結合していない遊離の甲状腺ホルモン。甲状腺ホルモンの過剰や低下から甲状腺の異常をみます。 |
| 腫瘍マーカー | | 単独あるいは、組み合わせ測定することで癌の早期発見が可能です。 |
| | AFP アルファ胎児性蛋白 | 原発性肝細胞癌で高値を示します。肝硬変や肝炎等の良性疾患においても軽度から中等度の上昇をみます。 |
| | CEA 癌胎児性抗原 | 様々な癌で陽性を示します。良性疾患でも高値を示すことがあります。術後、治療後の経過観察の指標として有用です。 |
| | PSA 前立腺特異抗原 | 前立腺癌の早期診断に有用です。前立腺肥大症でも高値を示すため鑑別が必要です。 |
| | CA19-9 糖鎖抗原19-9 | 膵癌を中心に各種消化器癌で高値を示します。肝硬変や肝炎、胆嚢炎や糖尿病でも高値を示します。 |
| 尿検査 | 尿一般 | 尿に試験紙をつけて尿に含まれる成分をみます。 |
| | | 白血球：腎、尿路の感染症や炎症で白血球が増えます。 |
| | | 亜硝酸：細菌の有無を検出して、腎や尿路の感染症の原因をさぐります。 |
| | | 潜血：わずかな赤血球やヘモグロビンを検出します。腎臓、尿管、膀胱といった尿路に出血があると陽性になります。 |
| | | ケトン体：糖の不足や代謝障害、嘔吐、下痢、高熱などで排泄されます。 |
| | | 尿蛋白：腎機能の低下などで尿に蛋白質が漏れ出します。運動や発熱でも一時的に陽性になることがあります。 |
| | | 尿糖(ブドウ糖)：血糖が一定限度を超えると尿にでます。糖尿病発見の手がかりになります。 |
| | | P/C：蛋白/クレアチニン比で一日蛋白量を評価できます。 |
| | | ウロビリノーゲン：肝臓で作られる胆汁の分解成分で土が正常です。 |
| | | 尿沈渣 尿の固形成分を顕微鏡で詳細に調べます。出血を示す赤血球、感染や炎症を示す白血球や細菌、腎臓~尿道に由来する細胞を観察します。 |
| 便検査 | 便ヒトヘモグロビン | 便表面に混じっている目に見えない微量の血液を検出します。連続した出血は大腸癌の発見につながります。 |

| 項目名 | | | 目的 |
|------|----------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 栄養 | TP | 総蛋白 | 蛋白の総量で、栄養状態や全身状態の指標になります。 |
| | Alb | アルブミン | 栄養状態の悪化や肝障害の程度を反映します。 |
| | A/G | アルブミン/グロブリン比 | 血中のアルブミン(A)とグロブリン総量(G)の比を算出したものです。 |
| | PreAlb | プレアルブミン | 短期間の栄養状態の把握や肝の蛋白合成能の把握に有用です。 |
| | Zn | 亜鉛 | 様々な代謝の調節に関わる大切な微量元素。欠乏による症状は多彩で、食欲不振、元気がない、皮膚炎、... |
| 慢性炎症 | ZTT | 硫酸亜鉛混濁反応 | 蛋白の異常を総体的に示します。慢性肝疾患の発見に有用です。肝疾患以外に、慢性甲状腺炎、膠原病、慢性感染症等でも異常を示します。 |
| 黄疸 | T-Bil | 総ビリルビン | 総ビリルビンとその種類は、肝疾患の診断、黄疸の鑑別などに重要な検査です。 |
| | D-Bil | 直接(抱合型)ビリルビン | 肝障害により胆汁の流れが悪くなると、直接ビリルビンの数値が上がります。 |
| | ID-Bil | 間接(非抱合型)ビリルビン | 通常より過剰に赤血球が壊れると間接ビリルビンの数値が上がります。 |
| 腎機能 | BUN | 尿素窒素 | 腎機能の指標として広く利用されます。消化管出血や脱水でも上昇します。 |
| | Cre | クレアチニン | 食事など外的因子の影響を受けない、腎機能の優れた指標で、機能が低下すると数値が上がります。 |
| | e-GFR | 推算糸球体ろ過値 | 性別、年齢、血清クレアチニンの値を計算して腎機能低下を予測します。 |
| | e-Ccr | 推算クレアチニンクリアランス | 年齢、体重、Creの値から計算で腎障害を推測します。薬剤投与の際考慮します。 |
| 尿酸 | UA | 尿酸 | 体内で不要になった物質でプリン体から作られます。高値は、痛風や痛風腎、尿路結石症を発症します。 |
| 脂質 | T-Cho | 総コレステロール | 原発性・続発性高コレステロール血症のスクリーニング検査です。 |
| | TG | 中性脂肪(トリグリセライド) | 動脈硬化の危険因子です。食後は高値になるため、採血は原則的に空腹時に行います。 |
| | HDL-C | 高比重リポ蛋白コレステロール | 酸化され変性したLDL-Cを取り除き肝臓へ運びます。動脈硬化の予防につながります。 |
| | LDL-C | 低比重リポ蛋白コレステロール | 余分なLDL-Cは血液中にたまり酸化され血管壁に付着し、動脈硬化などの原因につながります。 |
| | LDL/HDL | | 値が高くなるにつれて、動脈硬化が進行するといわれています。2.0を超えるとコレステロールの塊が血管全体にこびりついてきます。LDL/HDL比を低く管理することで、動脈硬化の進行を抑えられると話題になっています。 |
| ミネラル | Na | ナトリウム | ミネラルは細胞の働きや体内の水分や酵素の調節に重要な役割をはたしています。これらの物質は常にほぼ一定になるように調節されていますが、バランスがくずれると身体に不都合が生じます。 |
| | K | カリウム | |
| | Cl | クロール | |
| | Ca | カルシウム | |
| | IP | 無機リン | |
| 貧血 | Fe | 鉄 | 鉄は赤血球のヘモグロビンを構成する元素で、欠乏すると小球性貧血になります。 |
| | フェリチン | | 鉄を貯蔵し、血清鉄の値を適切に維持します。鉄の貯蔵状態を反映します。 |
| 肝胆臓 | AST(GOT) | アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ | ASTは肝細胞もしくは心臓などALTは肝細胞に多く存在します。何らかの異常で肝細胞が壊れることにより、はじめて血液中に漏れ出します。数値が高いということは、肝臓が障害を受けている状態です。 |
| | ALT(GPT) | アラニンアミノトランスフェラーゼ | |
| | ALP | アルカリホスファターゼ | 肝障害、胆汁うっ滞や骨疾患、妊娠等で上昇を示す酵素です。 |
| | γ-GTP | ガンマグルタミルトランスぺプチターゼ | 肝・胆道系障害のスクリーニングに用いられます。胆汁うっ滞や、アルコール性、薬剤性肝障害で上昇します。 |
| | Ch-E | コリンエステラーゼ | 肝でつくられるため、肝の機能障害を反映します。また全身状態の悪化や栄養障害で下がります。栄養過多による脂肪肝で上がります。 |
| | LDH | 乳酸脱水素酵素 | ほとんどの組織や臓器に分布する酵素です。貧血、炎症、腫瘍など汎用的なスクリーニング検査として用いられます。 |
| | Amy | アミラーゼ | 膵疾患、唾液腺疾患、肝・胆道、十二指腸疾患の診断補助に有効です。 |
| | リパーゼ | | 脂肪を分解する消化酵素で、急性・慢性膵炎などの膵疾患で上昇します。 |
| 筋 | CK | クレアチンキナーゼ | 骨格筋や心筋の崩壊を反映して上昇する酵素です。 |
| 急性炎症 | CRP | C反応性蛋白 | 炎症性疾患や体内組織の崩壊がある場合に増加します。炎症や病変の程度を鋭敏に反映します。 |
| | 赤沈60分 | 赤血球沈降速度60分値 | 赤血球が沈む速さをみます。蛋白成分の異常によって速くなったり、遅くなったりします。慢性炎症の指標です。 |
| リウマチ | RF | リウマチ因子 | 関節リウマチ患者の70-90%にみられます。診断のてがかり、経過観察、治療効果の判定に用いられます。 |
| 糖尿 | 血糖(GLU) | グルコース | 糖尿病の基本的な検査です。空腹時で126mg/dl以上は糖尿病を疑います。 |
| | HbA1c | ヘモグロビン エー.ワン.シー | 糖尿病患者における過去1-3ヵ月の長期間の血糖コントロールの指標です。合併症予防には長期間のコントロール管理が必要です。 |